

令和3年7月14日

土佐リハビリテーションカレッジ

理事長 大崎 博澄 様

学校関係者評価委員会

委員長 北村 剛

令和3年度学校関係者評価委員会報告書

令和3年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小笠原 正 (企業等評価委員)
- ② 一圓 智加 (企業等評価委員)
- ③ 細田 里南 (卒業生評価委員)
- ④ 北村 剛 (卒業生評価委員 委員長)
- ⑤ 西本 正志 (専門家等評価委員)
- ⑥ 濱川 美香 (高等学校等評価委員)
- ⑦ 大崎 紀美代 (保護者評価委員 副委員長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- 第1回委員会 平成27年8月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第2回委員会 平成28年10月1日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第3回委員会 平成29年7月29日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第4回委員会 平成31年3月26日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)
- 第5回委員会 令和3年7月9日 (会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室)

3 学校関係者評価委員会報告書

別添のとおり

以上

令和3年度学校関係者評価委員会報告書

令和3年7月9日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

I. 学校運営目標について

1. 国家試験合格率について

【令和2年度の取り組み】

○国家試験合格率「新卒者100%」に対する達成状況

- ・第56回理学療法士国家試験において、全国では新卒受験者10,522名に対し合格者9,093名（合格率86.4%）であった。一方、本校では新卒受験者39名に対し合格者36名（合格率92.3%）であった。
- ・第56回作業療法士国家試験において、全国では新卒受験者4,895名に対し合格者4,345名（合格率88.8%）であった。一方、本校では新卒受験者36名に対し合格者35名（合格率97.2%）であった。
- ・両学科共に「新卒者合格率100%」の目標を達成できなかったが、その合格率は全国平均を大きく上回ることができた。また、既卒者も含む受験者全体の合格率も両学科共に全国平均を顕著に上回ることができた。

【令和3年度の目標】

○国家試験合格率「新卒100%」

- ・国家試験対策は4年間の学習の積み重ねが基本である。各学年で学力の定着を図り、自学自習の習慣も培うよう指導する。
- ・国家試験受験対策は早期に3年次から始める。
- ・4年次後期には模擬試験を集中的に繰り返し、各学生の受験勉強の進捗度合を確認し、弱点の克服に活かす。
- ・学生が落ち着き安心して受験勉強に取り組むことができるよう校内の学習環境を整える。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・第56回国家試験の難易度は昨年度と比較してどうであったのか？

【学校からの回答】

- ・昨年度と比較し、全国平均合格率が低下する中でも本校は一定の合格率を維持できている。

2. 4年間卒業率について

【令和2年度の取り組み】

○4年間卒業率「90%以上」に対する達成状況

- ・平成29年度入学生である第25期生の入学数は両学科共44名であった。これらの内、本校修業年限である4年間で卒業できたのは理学療法学科で38名(卒業率86.4%)、作業療法学科で34名(卒業率77.3%)であった。
- ・これら第25期生の中で国家試験に合格した者は理学療法学科35名(合格率79.6%)、作業療法学科33名(合格率75.0%)であった。両学科共に運営目標値に到達できなかったが、令和2年度も文部科学大臣認定「職業実践専門課程」要件の一つである「卒業率70%以上」を達成することはできた。

【令和3年度の目標】

○4年間卒業率「各学科90%以上」

- ・教職員と学生との協同で卒業と国家資格取得を目指す。
- ・授業では学びへの関心を喚起するとともに、専任教員の教授力を向上させる。また、チュートリアル制度やゼミ等により個別的な学習支援も同時に行う。
- ・学生各々について授業の出欠状況や態度、成績等を適宜把握し、それらを学科教員で共有する。それにより学業停滞が心配される学生を早期に抽出し、問題解決に活かす。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・他の養成校と比較して、平均的な卒業率の値や卒業率70%が基準となる根拠は把握しているのか？

【学校からの回答】

- ・文部科学大臣認定「職業実践専門課程」要件の一つである「卒業率70%以上」の基準は理学療法・作業療法の学科に限ったことではなく、他の分野も含めた全体的な数値から導かれていると思われる。一番重要視すべき点は「4年間卒業率」と「国家試験の合格率」の両指標を掛け合わせた「4年での国家試験合格率」である。

3. 退学者数および留年者数について

【令和2年度の取り組み】

- 退学者数および留年者数「年間の退学者数3名以内・留年者数3名以内」に対する達成状況
- ・令和2年度当初の在学生総数は282名（理学療法学科151名、作業療法学科131名）であった。これらの中で退学者数は9名、留年者数は4名の結果となった。退学者数は令和元年度よりも3名増加し、目標値からは程遠い結果となってしまった。また、留年者数も僅かに1名だけではあるが、目標値を上回ってしまった。

【令和3年度の目標】

- 退学者年間数「3名以内」、留年者数「3名以内」
- ・上記2つの目標を達成するための取り組みが退学者数と留年者数の抑制につながる。
 - ・卒業後は国民の公益である医療・福祉・保健に携わることになる貴重な社会資源として学生を大事に育てる。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・令和2年度より「高等教育の無償化制度」が開始されたが、それによる退学者・留年者の人数・理由等の変化について、把握されているのか。

【学校からの回答】

- ・退学者・留年者に関しては、令和2年度はコロナ感染症対策による遠隔授業での開始・クラス活動の減少等が影響したと考えられる。
- ・「高等教育の無償化制度」の恩恵もあり、家計の逼迫による授業料の支払いが滞ったということは本校では見られない。

4. 入学試験受験者実数について

【令和2年度の取り組み】

○入学試験受験者実数「100名以上」に対しての達成状況

- ・令和3年度入学生数は理学療法学科39名、作業療法学科34名であった。入学定員数80名に対して、受験者実数は75名（理学療法学科39名、作業療法学科36名）にとどまり、前年度受験者実数63名（理学療法学科38名、作業療法学科25名）よりも12名増えたものの、今回も運営目標の達成は叶わなかった。

本校受験者実数増加のためにオープンキャンパス開催や進学ガイダンス参加、高等学校訪問等の多様な広報活動を計画していたが、新型コロナウイルス感染の拡大に伴い学生募集活動が制約されてしまうことが多かった。また、進展する18歳人口の減少も入学生確保に影響している。

【令和3年度の目標】

○入学試験受験者実数「100名以上」

- ・本校の利便性の良い立地や教育および福利施設の優位性に頼るだけでなく、学校運営指標の要となる国家試験合格率や就職率の目標を達成することで本校への信頼を獲得し、高校生等に対する訴求力を向上させる。
- ・オープンキャンパス開催・進学ガイダンス参加・高等学校訪問・SNS等の広報活動に一層注力する。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・特になし。

5. 就職率について

【令和2年度の取り組み】

○就職率「100%」に対する達成状況

- ・両学科の就職率は第1期卒業生以来、25年連続して100%を達成できた。令和3年度採用の求人数は理学療法学科1,905人（内、高知県内45人）、作業療法学科1,934人（内、高知県内47人）であった。前年度に比べて高知県内の求人数には大きな変化は認められなかったが、県外求人数は両学科共に500人を超えて顕著に減少しており、新型コロナウイルス感染症によるリハビリテーション利用者の減少や先行き不透明な状況が求人に影響を落としたものと考えられる。

【令和3年度の目標】

○就職率「100%」

- ・求人状況は就職志望の分野や地域の違いにより様々であるが、高知県内の就職状況は需給関係の不均衡により一層厳しさを増している。そのような状況でも採用を勝ち取ることのできる実力のあるセラピストを育成する。
- ・学生支援室職員と就職アドバイザーにより他校との競争に負けないよう就職活動を支援する。求人獲得とその情報提供、就職活動支援講座と就職説明会の開催、面接や小論文等の対策を十分に行う。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・特になし

6. その他の報告事項

令和2年度は新型コロナウイルス感染症に対して学校内でも「新しい生活様式」を求められる1年であった。年度当初の4月には止むを得ず一時休校し、その間に本校IT委員会を中心に教職員が一丸となってオンライン授業の体制を整え、5月からは遠隔授業と対面授業の組み合わせで分散登校を図り、学生間の密集・密接の回避に努めた。また、医療施設等での臨床実習は高知県内外の感染状況に絶えず目配りし、臨床実習施設への学生配置にあたっては新型コロナ感染の拡大地域を避け、原則として高知県内で臨床実習が成り立つよう計画した。

例年、就職説明会では医療施設や介護福祉施設等の採用担当者が県内外から来校している。また、臨床実習指導者会議でもたくさんの実習指導者が来校している。しかし、本校での対面開催は控えなければならない県下の感染状況であったため、それらのイベント開催についてもオンラインで行った。初めての試みで多くの労力を要したが、それらの開催を滞ることなく実施でき、たくさんの実りある成果を得ることができた。

インターネット・オンラインは学生募集活動でもこれまで以上に重要性を増した。県内感染症対応ステージに合わせてオープンキャンパスをWEBで開催したことも、県外の進学ガイダンスにオンラインで参加したこともあった。

以前より多様な広報活動を行ってきたが、令和2年度にはこれまでにない新展開としてオーテピア高知図書館との共催にて「高齢者の転倒を予防するリハビリ体験」を開催することができた。大変好評で本年度もオーテピア高知図書館との共催で「リハビリ体験」の開催が決定している。

昨年度はコロナ禍で外出機会が減少し運動不足に陥る人が少なくなかった。「さんさんテレビ」からの依頼を受け、本校教員が自宅で実行できる体操を提案し、この体操の実技が「おうちde体操」として繰り返し放送され、たくさんの反響をいただいた。

昨年度は新型コロナウイルス感染症により学校運営に様々な制約を受けたが、その対処に多くの時間と人手を取られた年でもあった。しかしながら、教職員の団結と学生の協力、さらにはIT技術の積極的活用により学校運営を停滞させることなく邁進させることができた。

【学校関係者評価委員からの意見】

- ・「リハビリ体験」を含む様々な活動が、理学療法・作業療法の認知拡大に繋がっていくと思われる。また、それを通して、多くの年代の方々へ本校の良い宣伝効果も生むと考えられるので、今後も継続して頂きたい。